

コープみらい サステナビリティレポート

CO-OP MIRAI Sustainability Report

2026



コープみらいSDGsの取り組み

コープみらいは、前身の生協から半世紀以上にわたり
人と自然が共生する社会と平和な未来づくりに取り組んでまいりました。
今後も皆さまとともに、豊かな未来をはぐくむために
新たな試みに挑戦していきます。

CONTENTS

04 トップメッセージ

06 特集対談

誰一人取り残さない社会に向けて

日本赤十字社 副社長 × 代表理事 理事長
鈴木 俊彦さん 熊崎 伸

12 サステナビリティ活動のあゆみ

14 SDGsとコープみらい

SDGs重点課題と2025年度の取り組み

16 01 持続可能な生産と消費のために

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

24 02 安心して暮らせる地域づくりのために

誰もが安心してくらし続けられる
地域社会づくりに貢献します

28 03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、
誰もが安心して働ける組織づくりを進めます

32 04 100年後の地球のために

自然の豊かさを未来へつなぎ、
地球温暖化対策を進めます

36 05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

人権が守られ、飢餓や貧困のない
平和な世界の実現のために活動します

40 サステナビリティデータ

43 ガバナンス・内部統制

44 コープ(生協)について

45 コープみらいとコープデリグループについて

46 コープみらいの事業と活動

編集方針

『コープみらい サステナビリティレポート2026』は、SDGs(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理念・ビジョンと関連付けながら主な取り組みを紹介し、「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

【対象者】組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

【対象期間】特に断りのない限り2025年度(2025年3月21日～2026年3月20日)です。

【対象範囲】コープみらいの活動を中心に報告していますが、コープデリグループ全体で行っている活動についても掲載します。なお、コープデリグループ、コープデリ連合会については、45ページをご覧ください。

【報告数値】特に断りのない限りコープデリグループの数値を掲載し、コープみらいの数値の場合はその旨を明記します。数値は端数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

【発行年月】2026年7月

コープみらい
サステナビリティサイト



サステナビリティサイト
動画ギャラリー



コープデリグループの
サステナビリティInstagram



未来 つな げ よう



Message from the President

トップメッセージ

「未来へつなごう」をスローガンに
協同と助け合いの力で
地域共生社会の実現を目指します。



生活協同組合コープみらい
代表理事 理事長

熊崎 伸

コープみらいは、コープデリグループの一員として同じ理念・ビジョンとSDGs重点課題を掲げ、持続可能な社会づくりに取り組んでいます。生協の取り組みと、SDGsの目指す方向は同じです。私たちは「未来へつなごう」をスローガンに、商品やサービスの提供、地域とのつながりづくり、そして組合員の参加と協同を通じて、持続可能な暮らしと地域社会の実現に取り組んでいます。

世界では、中東をはじめ各地で紛争・戦争が激化し、私たちはかつてない危機に直面しています。平和とは、あたりまえの日常が続くこと。誰もが笑顔で暮らせる平和な未来を次世代に引き継ぐため、このたび「コープみらいが平和の取り組みで大切にすること」を策定しました。また2026年核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議には、生協代表団にコープみらいとして参加し、核兵器廃絶を強く訴えました。これからも地域の皆さまとともに、平和を願う歩みを前進させてまいります。

一方、国内では大規模な地震や豪雨など自然災害が相次いでいます。2024年の能登半島地震・豪雨災害では今なお多くの方々が大変なご苦労を重ねています。コープみらいでは、組合員の皆さまからお寄せいただいた募金をもとに、くらしやコミュニティの再建など被災された方々に寄り添った

支援を続けています。「忘れない・伝える・続ける・つなげる」を合い言葉に、被災された方々に笑顔が戻るその日まで支援を続ける所存です。

物価高騰が長引き、くらしを取り巻く状況が厳しさを増す中でも、私たちの「助け合いの輪」は確実に広がっています。ひとり親・両親がいない家庭の高校生・高等専門学校生を支援する奨学金給付事業では、毎月定額の募金で支える「奨学金応援サポーター」が3万人を超えました。1,700人以上の奨学生が夢を追いかけるための大きな糧となっています。引き続き、皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。

コープみらいはこれからも、気候変動への対応、資源循環の推進、人権を尊重した事業活動などに取り組み、事業と活動の総合力で「誰ひとり取り残さない社会」の実現を目指します。生産者・取引先の皆さま、行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップをいっそう大切に、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を築いてまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ くらしと未来

ビジョン2035

食べるしあわせ、自分らしいくらし

「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

誰一人取り残さない社会に向けて



日本赤十字社

副社長

鈴木 俊彦さん

コープデリ生活協同組合連合会

代表理事 理事長

熊崎 伸

コープデリグループと日本赤十字社は、人のいのち、健康、尊厳を守り、誰一人取り残さない社会を目指して活動してきました。

社会課題が複雑化し、地域の支え合いの基盤が一層重要となるなか、共通する理念を起点に、災害支援や防災・減災、平和への願い、地域のつながりの再構築について、日本赤十字社の鈴木副社長に、生協への期待と今後の協働の可能性を伺いました。ともに生み出す社会的価値と、持続可能な地域社会への展望を見つめます。

○ 誰一人取り残さない思いの共通点

熊崎 まずはじめに、生協と赤十字がどういった想いを持った組織なのかを確認したいと思います。そもそも生協は設立当初から、誰一人取り残さない、皆が幸せになる豊かなくらしのために活動してきました。私自身、生協はどんな組織かと尋ねられたとき「助け合いの組織です」とお答えすることが多くあります。赤十字の理念や国内外での

活動には、生協と近いものがあると想像していますが、いかがですか。

鈴木 私も赤十字と生協は、根っここの部分で通じるところがあると思います。日本赤十字社は「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という使命を掲げています。支援を必要とする人を中心に置き、誰一人取り残さないように、命と健康と尊厳を守っていくことが我々の決意で

もあり、大切にしてきたことでもあります。
また「救う」は、救う人、救われる人が一方的な関係
ではありません。相互に入れ替わることもあり、そ
れは助け合い精神にも通じ、理念も含めて生協と
赤十字は親和性のある組織だと改めて思います。

が寄稿で、苦しんでいる人の目の前の姿だけでな
く、その背景にあるくらしや、これからの人生まで想
像しなければ、真に実効ある支援にはつながらない
と書かれていたのを拝見し、深く共感しました。

鈴木 それは支援の現場で、私たちが常に心に置かなけれ
ばならないことです。今、目の前で苦しんでいる方
の姿は、その人の一場面にすぎません。そこに至る
までの生活があり、これから先の人生もあります。そ
うした全体像に思いを致しながら支援しなければ、
真に実効ある支援にはならないのです。

○ 本当の意味での支援とは

熊崎 日本赤十字社のミッションステートメントに「常に
想像力を持って行動します」とあります。鈴木さん

//////////////////// 数字で見る日本赤十字社 //////////////////////

赤十字は、災害や紛争、病気や事故などで苦しむ人を支える世界的な人道ネットワークです。日本赤十字社は、その
一員として日本で活動する組織で、その活動は、災害時の救護だけでなく、献血、救急法講習、防災・減災、こころの
ケアなど、私たちのくらしに身近なところにも広がっています。

2027年に
150周年



「明治時代から続く、助け合いの歴史」
日本赤十字社の起源は、西南戦争に
おいて政府による救いの手の届かな
い戦傷者の姿に心を痛めた佐野常民
が、一人でも多くのひとを救うために
博愛社を創設したことに遡ります。

赤十字の
7原則



人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、
世界性。
1965年にオーストリア・ウィーンで
開催された第20回赤十字国際会議
で赤十字7原則が宣言されました。
「人道」が赤十字の基本となり、他
の原則は「人道」を実現するために
必要となるものです。

191の
国と地域



世界の赤十字社・赤新月社は現在、
191の国と地域に広がっています。
各国の赤十字社・赤新月社は「命と健
康を守る」「苦痛を軽減する」「人間の
尊厳を守る」という目的のために幅
広い活動を行っています。



赤十字の
3つのマーク

赤十字マークは、赤十字の創設者アンリー・デュナンの祖国であるスイ
スに敬意を表して、スイス国旗の配色を逆にしたものが基になってい
ます。多くのイスラム教国は、赤十字の代わりに「赤新月」を使用し、ま
た万国共通マークとして「レッドクリスタル」があります。

「赤十字マーク」、「赤新月マーク」、「レッドクリスタル」

「赤十字マーク」は、スイスに敬意を表するために、
スイス国旗の配色「赤地に白い十字」を反転して「白地
に赤い十字」としたものです。多くのイスラム教国は、
赤十字の代わりに「赤新月」を使用していますが、使用
に際しての条件、効力などは「赤十字」とまったく同一
です。

また、2007年1月14日にジュネーブ条約の第3追
加議定書が発効し、「赤十字」と「赤新月」に加えて、新

たな標章が追加されました。新たな標章は、白地に赤
いひし形を配したもの（レッドクリスタル）となってい
ます。なお、各国の赤十字社を表すマークとして使用
する場合には、レッドクリスタルの中にその国独自の
マークを入れることもできます。



赤十字



赤新月



レッドクリスタル

熊崎 本当に、支援する側の型に相手を当てはめるのではなく、その人の痛みや苦しみを受け止め、今何を必要としているのかを見極めながら、支援のあり方を考えていくことが大切だと思います。

○ 赤十字の活動を貫く7原則

鈴木 赤十字の強みは世界191の国と地域に赤十字社が置かれ、そのネットワークで助け合うことができることです。武力紛争のときはもちろん、自然災害にも、まずは地元の赤十字社が動き、その上で各国の赤十字社や連合体であるIFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)に支援を要請し、日本赤十字社も必ずそれに応え、支援をします。

熊崎 紛争当事国同士でも、両国に赤十字社が存在しているので、犠牲者が出たら両方の支援に入るのですね。

鈴木 赤十字の7原則(人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性)は、中心に人道が置かれていますが、非常に大切なのは公平・中立です。どのような勢力にも赤十字は加担しません。傷ついている人がいれば、両方に支援を行います。どれほど国際関係が複雑になっても、本当に実効性のある取り組みをするには、公平・中立をいかに守り抜くかがポイントだと考えています。

熊崎 赤十字マークもいくつかありますね。違いを教えてください。

鈴木 赤十字マークは本部の置かれているスイスの国

旗を反転させたものです。ただキリスト教を想起させることから、イスラム圏では赤新月という三日月のマークを使用しています。また万国共通の白地に赤いひし形を配した「レッドクリスタル」もあります。

熊崎 ジュネーブ条約で赤十字マークを掲げた病院や救護員は、いかなる場合も攻撃してはならないという国際ルール(保護標章)があるそうですね。一方でイランやガザでは赤十字のスタッフが攻撃されているともお聞きしています。

鈴木 おっしゃる通り、赤十字のスタッフが攻撃され、犠牲者も出ています。支援する人たちが攻撃を受けて支援ができなくなることは、絶対にあってはならないことです。攻撃に抗議をする意味で、ICRC(赤十字国際委員会)とIFRCが「紛争地で続く人道支援要員殺害への強い憤り」という共同声明を出しました。日本赤十字社も外務省に同様の要請を出しています。こういったことに抗議の意を表していくことも、国際人道法(IHL)を守る上で重要なことです。

○ 被災地に最初に入り、最後までいる

熊崎 実際に、災害の被災地ではたくさんの赤十字の皆さんがご活躍されていますね。

鈴木 赤十字は被災地に最初に入り、最後までいることをモットーとしています。最初は救護班が駆けつけ、傷ついている人たちを医療の力で支援しま

//////////////////// 数字で見る生活協同組合 //////////////////////

生協の
3つの柱

生協は、一人ひとりの消費者がくらしのさまざまな願いを協同し、助け合いながら実現してゆく消費者の組織です。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加し、「利用」します。



出資



利用



運営

3,000万人
の組合員

日本の生協の組合員数は3,000万人を超え、実に日本全体の3分の1以上の世帯が生協に加入している計算になります。*



日本の生協の総事業高
3.8兆円

生協により事業内容は異なりますが、宅配や店舗などの商品供給事業のほか、共済や福祉、医療などさまざまな種類の事業をあわせると、これだけの規模となります。*



※「第75回日本生協連通常総会参考資料集」2024年度推計値より。

す。発災後、時間が経つと、こころのケアなど、日常生活に近い支援が必要とされますので、どのように手を差し伸べたらいいかを考え、活動します。現場を離れるのは、支援が完了した最後のときとしています。

熊崎 私たち生協も、被災地の支援は伴走型と言っています。赤十字と同じように最初に支援に来たのは生協だった。そして最後まで支援の場にいたのも生協だった、と言われるように頑張っていきたいと考えています。



鈴木 人の生活を中心に置くという意味で、生協の活動の考え方と通ずるところがあります。

熊崎 そうした息の長い支援を支えているのが、組合員から託された募金でもありますね。

〇 組合員の思いを支援の力に

熊崎  本赤十字社へは、組合員からの募金をお届けしたこともあります。募金に関して、組合員からは「現地の人たちの役に立つ使い方をしてくれ、それを報告してくれるので安心」という声を一番多くいただきます。それぞれの募金がどう使われたかをご報告いただき、それを組合員に伝え、また募金にご賛同いただけるという良い循環につながっています。

鈴木 コープデリの組合員さんにはたくさんのご支援をいただき、本当に感謝をしています。紛争地や被災地で活動をするための原動力になっているのが、皆さんからいただくさまざまなご寄付です。エンジンに例えれば、ガソリンとなるのは皆さんからのご寄付やボランティアによる人の力です。

熊崎 募金が多く寄せられるのは、組合員の温かな気持ちはもちろんですが、きちんと結果をお返しいただいているからだと思います。

また、今は助ける側にいても、いつ助けられる側になるかはわからない。だから今できる支援をしようと考えている人が多いような気がします。

鈴木 募金の話になりましたので、安心していただく意味も含めて、その中身をご説明します。災害時に募る義援金は、全額被災地にお届けするものです。日本赤十字社は窓口となるだけで、私たちの活動の資金とはしていません。一方、活動資金、海外救援金など、赤十字の活動のためにお寄せいただいたご寄付は、さまざまな活動に役立たせていただいています。義援金は確実に被災地にお届けします。あわせて、赤十字の活動へのご協力という視点でもお考えいただくとありがたいです。

熊崎 被災者支援のための義援金はもちろんですが、支援が長期化した際には、相手が今必要とする支援に活用できることは大切です。

鈴木 赤十字は最後までいると申し上げましたが、令和6年能登半島地震でも発災から時間が経つにつれて、求められることが医療から変化していきます。例えば、心理社会的支援であるこころのケアなど、日常生活に近づいた支援が求められます。そういった支援は医療の専門家でなくても、いろいろなボランティアの方々に成り立っています。

熊崎 私どもも、能登でみんなでお茶を飲んで交流するようなサロン活動を行っています。誰もが知っている赤十字と一緒に活動を行うと、現地の皆さんも安心しそうですね。

鈴木 単独で行くよりも、もっと大きな力になりそうです。チームを組んで行くというのはいいアイデアですね。



○ 防災・減災への取り組み

熊崎 ま た、このような災害が起きた後の支援はもちろんですが、起きる前の備えも同じくらい大切ですね。

鈴木 災害が起きる前にいろいろな備えをしておくことは、本当に大切です。日本赤十字社では、長年、各支部で救急法や水上安全法など各種の講習を行ってきました。

実は、2026年は講習事業100周年です。生協と何か共同開催の取り組みができれば、さらに活動が広がっていく気がします。

熊崎 私たちも組合員とともに防災・減災の取り組みを行っています。組合員が考えたクイズやゲームなど、子どもも楽しめるプログラムもありますので、一緒にできることがあるのではないのでしょうか。

鈴木 日本赤十字社でも、「まだ大丈夫」「自分は大丈夫」という避難をためらわせる心の働き（認知バイアス）を、「バイアス妖怪」と例えて、子どもにも分かるように伝えています。

そういうことも一緒にやっていくと、活動が広がって効果も出てきそうですね。

○ 核兵器廃絶への取り組み

熊崎 命 を守るという意味では、災害への備えだけでなく、戦争や核兵器の問題にも向き合う必要があります。赤十字では平和活動もされています。

鈴木 平和活動で象徴的なのは核兵器廃絶への取り組みです。核兵器が使用されると、赤十字が使命とする支援ができなくなります。それは赤十字の存在の否定にもつながります。

核兵器は人間の命と健康、尊厳の否定、赤十字の理念の否定であり、その存在は決して容認できません。これは国際赤十字、そして日本赤十字社としても一貫して訴え続けていることでもあります。

熊崎 生協としても、核兵器廃絶と戦争のない平和な世界を目指し、継続して活動しています。2026年4月のNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議にもニューヨーク国連本部へ被爆者の方々とともに代表を派遣し、被爆国日本として活動してきました。

鈴木 それは素晴らしいですね。2023年のG7広島サミットでは、ICRC総裁と日本赤十字社社長との連名で、「破滅的な結末を避けるために：もう二度と核兵器が使われることがないよう、今こそ行動すべき」という共同声明を出しました。こういったあらゆる機会を捉えて、核廃絶に向けた取り組みを行っています。

//////////////////// コープみらいの被災地支援 //////////////////////

2024年1月1日に能登半島を襲った地震、そして同年9月の記録的な大雨。震災直後から現在まで、コープみらいは被災地に寄り添った支援を続けています。

詳細はこちら



コープいしかわへの支援

被災地域を長期的に支援し復興につなげるため、被災地の生協であるコープいしかわへ、コープデリグループから6人の職員が2期にわかれ、それぞれ1年間出向し、宅配センターで配達などの業務を担いました。

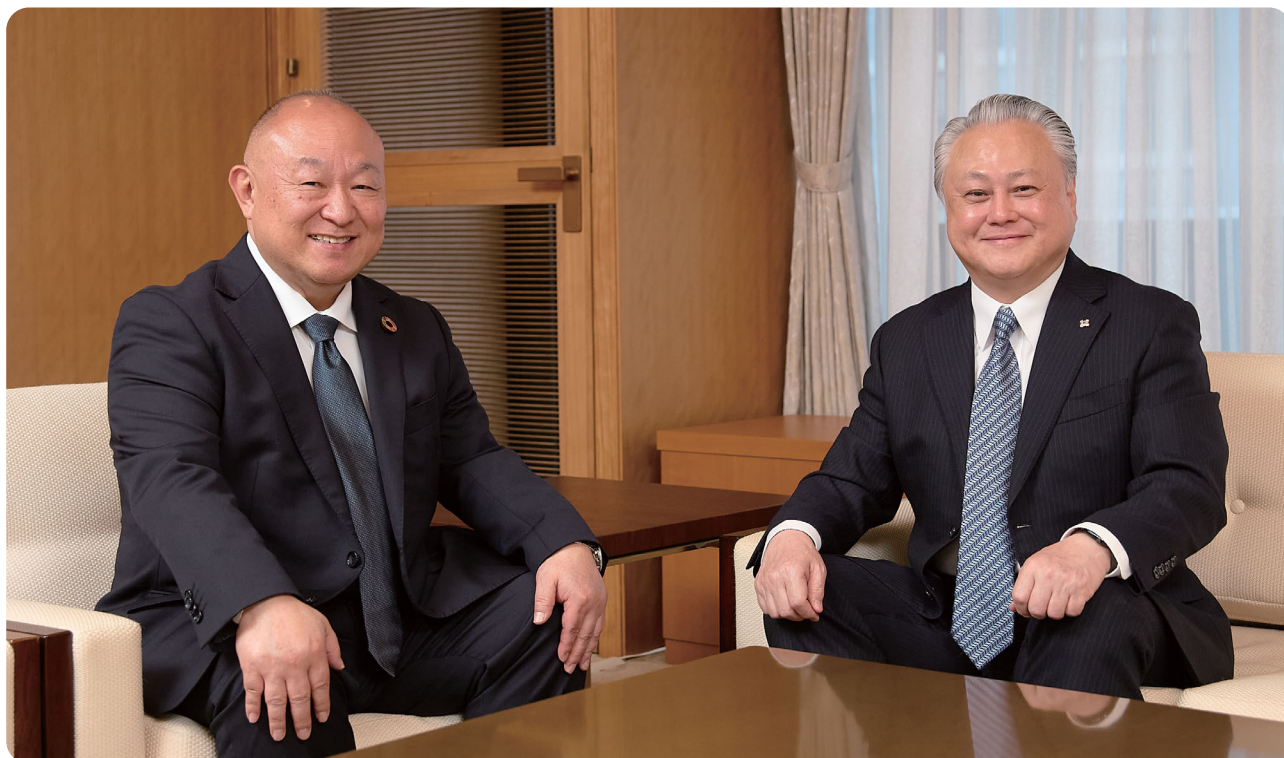


被災地への支援

能登では、住み慣れた家や地域を離れざるを得ないなど、つながりが途切れ、孤立・孤独の懸念が高まっています。地域の方が集まり交流する場をつくる活動を行っています。



※組合員による募金については42ページをご覧ください。



○ 変わる社会の中で 生協に期待すること

熊崎 命 と尊厳を守るという課題は、国際社会だけでなく、私たちの地域の中にもあります。冒頭にお話した鈴木さんの寄稿の中では、子どもの貧困など地域の課題への対策を考えていかなければいけないことも書かれていました。

鈴木 人口減少とそれに伴う地域の変容が深刻な問題となっています。そこには2つの側面があります。1つは地域の結びつきの希薄化、もう1つは、地域を支える地方自治体も人口減少の影響で力が落ち、多様な業務に対応しにくくなっています。地域や人のつながりの脆弱性が表面化するのが災害時です。普段から強靱な組織、地域をつくっておかないと、大変なことになります。地域をもう一度結びなおす存在として期待しているのが、生協です。生協は組合員が自分の意思で加入する自治組織でもあります。持続可能な自治組織として、地域で力を発揮されることを大いに期待しています。

熊崎 生協は全国に約3000万人の組合員がいます。生協に属することで、人とのつながりが増え、知らなかったことを勉強したり、実践する機会が増えたりすることが生協の強みです。それを異なる立場の方から言っていただけるのは、とてもうれしく、自信にもなります。

○ みんなで支え合える地域へ

鈴木 人口が減少し、コミュニティが希薄になるなか、目指したいのは多様な人たちが共に生きる地域共生社会です。役割を固定せず、どんな人も助けたり助けられたりができる助け合いの関係を地域に根付かせることで、地域共生社会がつくられます。これはまさに生協の取り組みや赤十字の取り組みに通底しているものです。日本の地域社会を力強いものにするには、生協や赤十字の活動がますます重要になってくるでしょう。

日本赤十字社は、2027年5月1日に創立150周年を迎えます。赤十字の理念を実現するためには活動の基盤をより強固なものにしていきたいと考えています。そのためにも生協の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

熊崎 ありがとうございます。改めてお話を伺い、赤十字と生協には親和性があり、同じような視点で活動をされていることがよくわかりました。一緒にできることがたくさんありそうで、とても心強く感じます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

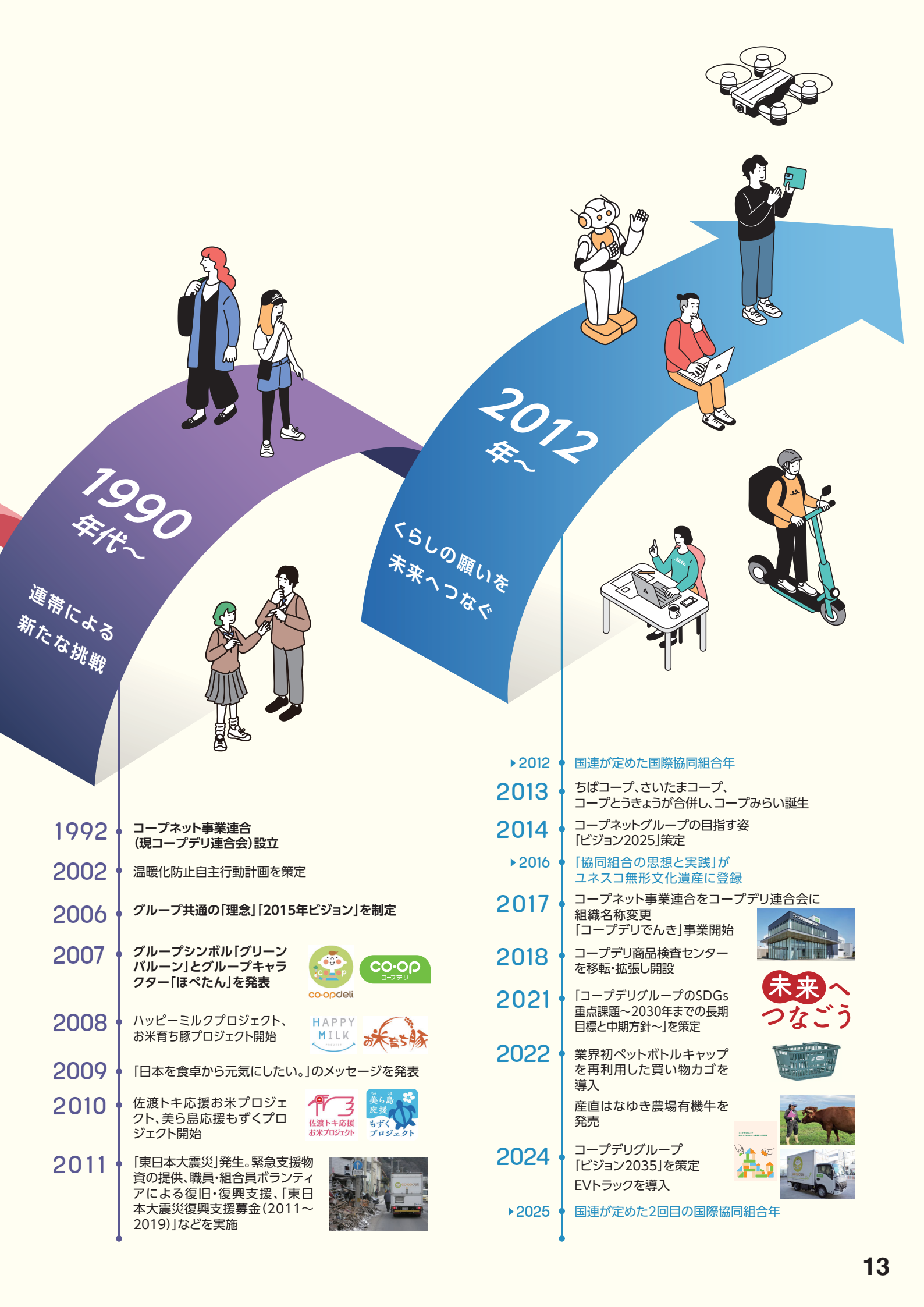
つながる想い、広がる未来。

サステナビリティ活動のあゆみ

前身の生協から続くコープみらいの歴史は、
一人ひとりの力は小さいけれども、地域の人々が話しあい、協力しあって、
くらしや地域をより良くしようとしてきた活動に満ちあふれています。
その活動はSDGsが掲げる目標そのものです。
時代が変わっても、人々がくらしの豊かさを願う気持ちは変わりません。

私たちはこれからも、くらしに関するコミュニケーションを広げ、
国際社会の相互理解を基礎とした平和を追求し、
人が自然と共生できる社会システムづくりを通して、
持続可能な社会をつくり、次世代へ継承していきます。





1990年代～

連帯による
新たな挑戦

2012年～

くらしの願いを
未来へつなぐ

1992

コープネット事業連合
(現コープデリ連合会)設立

2002

温暖化防止自主行動計画を策定

2006

グループ共通の「理念」「2015年ビジョン」を制定

2007

グループシンボル「グリーン
バルーン」とグループキャラ
クター「ほぺたん」を発表



2008

ハッピーミルクプロジェクト、
お米育ち豚プロジェクト開始



2009

「日本を食卓から元気にしたい。」のメッセージを発表

2010

佐渡トキ応援お米プロジェ
クト、美ら島応援もずくプロ
ジェクト開始



2011

「東日本大震災」発生。緊急支援物
資の提供、職員・組合員ボランティ
アによる復旧・復興支援、「東日
本大震災復興支援募金(2011～
2019)」などを実施



▶2012

国連が定めた国際協同組合年

2013

ちばコープ、さいたまコープ、
コープとうきょうが合併し、コープみらい誕生

2014

コープネットグループの目指す姿
「ビジョン2025」策定

▶2016

「協同組合の思想と実践」が
ユネスコ無形文化遺産に登録

2017

コープネット事業連合をコープデリ連合会に
組織名称変更
「コープデリでんき」事業開始

2018

コープデリ商品検査センター
を移転・拡張し開設



2021

「コープデリグループのSDGs
重点課題～2030年までの長期
目標と中期方針～」を策定



2022

業界初ペットボトルキャップ
を再利用した買い物カゴを
導入



産直はなゆき農場有機牛を
発売



2024

コープデリグループ
「ビジョン2035」を策定
EVトラックを導入



▶2025

国連が定めた2回目の国際協同組合年

SDGsと コープみらい

国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」と
コープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。
「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、
コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、
社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定しました。

コープデリグループ
理念
CO-OP
ともに はぐくむ くらしと未来

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

コープみらいはSDGsが国連で採択される以前から、リサイクル活動や
エシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。
私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。
SDGs重点課題で掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することは困難です。
目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、
組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。

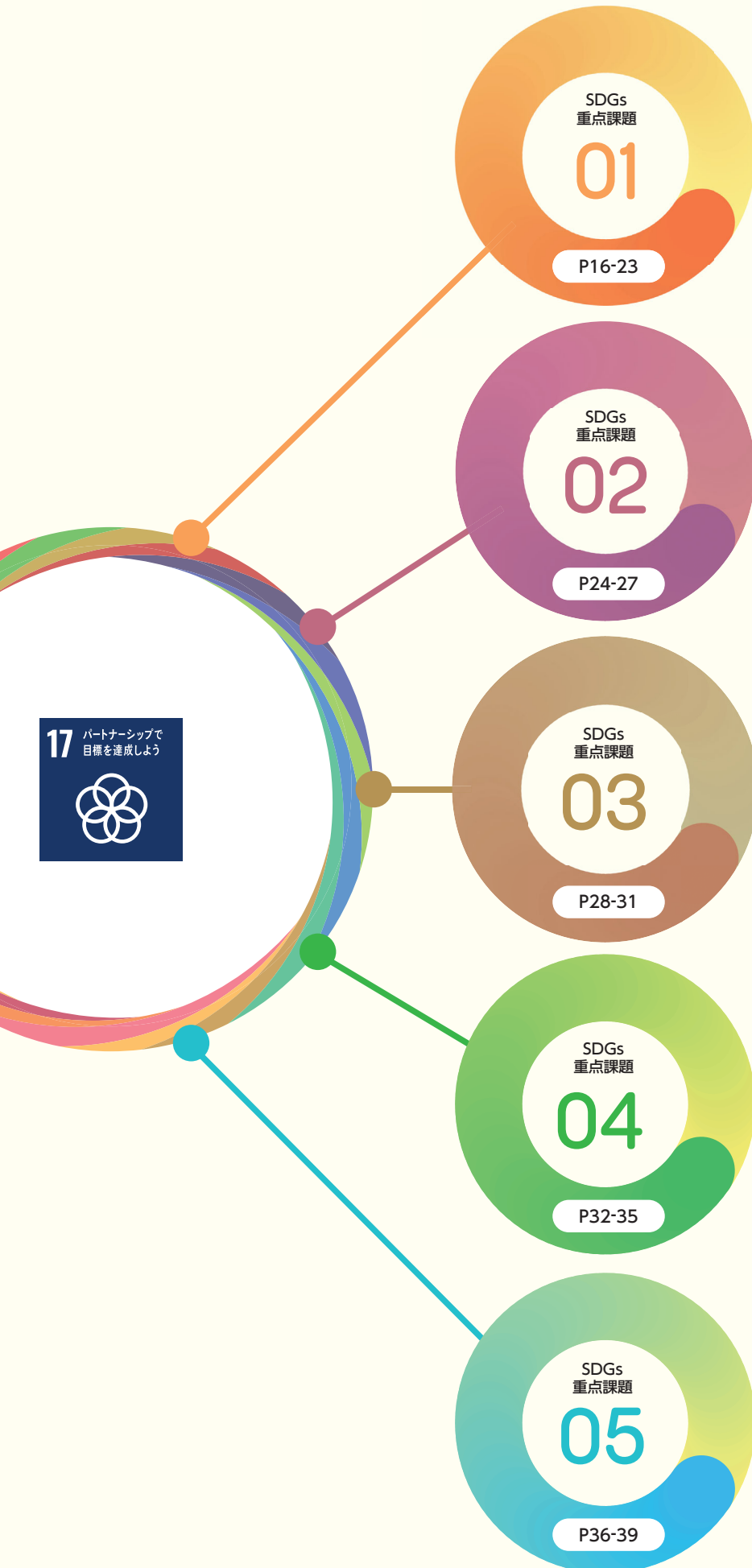
**未来へ
つなごう**

私たちは、「未来へつなごう」を
スローガンに掲げ、グループ全体で
SDGs重点課題の目標達成に
向け取り組みを進めていきます。



コープデリグループの
マスコットキャラクター
“ほべたん”

コープデリグループのSDGs重点課題



SDGs
重点課題

01

P16-23

持続可能な生産と消費のために

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます



SDGs
重点課題

02

P24-27

安心して暮らせる地域づくりのために

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献します



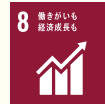
SDGs
重点課題

03

P28-31

人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、誰もが安心して働ける組織づくりを進めます



SDGs
重点課題

04

P32-35

100年後の地球のために

自然の豊かさを未来へつなぎ、地球温暖化対策を進めます



SDGs
重点課題

05

P36-39

世界中の人々の平和で健康な生活のために

人権が守られ、飢餓や貧困のない平和な世界の実現のために活動します



01 持続可能な生産と消費のために



JA佐渡 産地交流・研修会

「佐渡トキ応援お米プロジェクト」の生産に関わる人々との相互交流を通じ、トキとの共生を目指した取り組みの背景を学びます。

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

1

人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者（組合員）にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。

2

コープデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。

3

産地とパートナーシップを深め、持続可能な農畜水産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。

4

事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。

5

サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。

「環境」と「人」を未来へつなぐ持続可能な有機牛 産直はなゆき農場有機牛



01 持続可能な生産と消費のために

はなゆき農場飼育頭数

68頭

有機牛の生産は、飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JASの認定基準をクリアする必要があります。生産者の負担の大きさが課題となっています。この有機牛の生産へのチャレンジを、コープデリが子牛を買い取り、はなゆき農場に育成を預託することで支援しています。2025年度の出荷頭数は10頭、これまでの子牛購入頭数は累計で110頭となりました。

預託という仕組みで、安心して生産に取り組んでもらい、持続可能な食料生産を目指すとともに、若手生産者を支援しています。



詳細はこちら



02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指す

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

生きものにやさしい米づくりで、
佐渡をトキのふるさとに

佐渡トキ応援お米プロジェクト



日本のお米と田んぼを守る、
お米育ちの産直豚

お米育ち豚プロジェクト



寄付額累計

4,187万

1,109円



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2025年度は214万8,456円を寄付しました。

佐渡のお米を食べることが、生きものをはぐくむ環境づくりやトキと共生するお米作りの応援につながります。



詳細はこちら



飼料用米生産量から換算した田んぼ面積

420ha

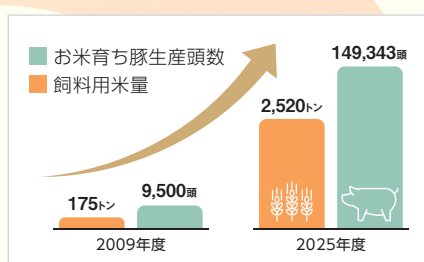


(1haあたりの収穫量6トンで算出)

2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは、米の生産者とともに、豚のエサ用のお米「飼料用米」を作ることで田んぼを守っています。そして、飼料用米を豚に食べさせることで日本のお米づくりを応援する取り組みです。

お米育ち豚を食べることが、日本の食と農業、そして畜産業を元気にすることにつながります。

詳細はこちら



エシカル消費拡大に向けた取り組み

コープデリグループは、地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買う「エシカルなお買い物」を積極的に応援しています。エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。コープではエシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」として、自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスして買い物をすることができるよう、有機JAS、フェアトレード、レインフォレスト・アライアンス、MSC、ASC、MEL、FSC、RSPO、エコマークなどの認証・認定商品をはじめ、寄付金付き商品の取り扱いや日本の農畜産業を応援する飼料用米の活用を進めています。

MSCラベル付き水産物を消費者に広める取り組みが認められ、日本生協連とコープデリ連合会が「MSCジャパン・アワード 2025」コミュニケーション部門を受賞しました。

※認証マークについてはP41を参照。

エシカル消費対応商品供給高

1,146 億円



詳細はこちら



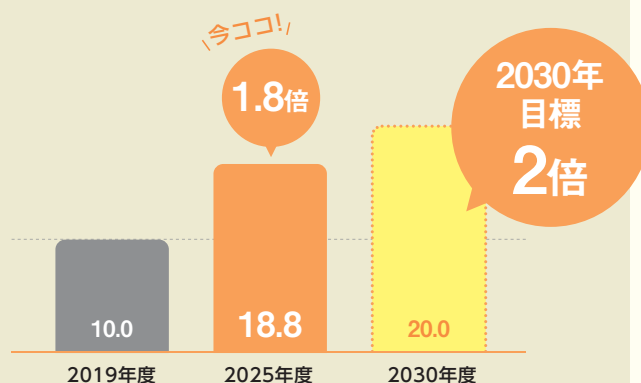
目標の到達状況

2030年目標

エシカル消費対応商品の供給高構成比を

2019年度比で2倍にします。

※単位：％（供給高構成比）



新たな持続可能な養殖のかたち「陸上養殖」
おかそだちサーモン®



おかそだちサーモン出荷量

9.7 トン

（成魚ベース）

持続可能な養殖方法として注目されている陸上養殖。おかそだちサーモン独自の水を循環させるシステムは、海を汚さない養殖方法です。おいしさと安心、そして環境への配慮。その全てを大切に育てられたおかそだちサーモンは、抗生物質に頼らない養殖を通じて、持続可能な生産とこれからの食卓、海の未来を支えています。

現在は生産量が少なく一部店舗での取り扱いですが、新たな養殖プラント建設を受け、今後は多くの組合員へお届けすることを目指しています。2026年2月には、店舗の水産担当職員によるプラントの研修を実施しました。



詳細はこちら



将来にわたる安定的な生産と品質の確保を目指して
りんご生産者サポート



りんご生産者サポート会員数

600 名

日本一のりんごの産地、青森県。しかし近年の気候変動や生産者の高齢化・後継者不足で、りんごの生産が難しくなっています。コープデリグループは、青森りんご植栽150周年と国際協同組合年である2025年を記念し、産直産地であるJAつがる弘前のりんご栽培を応援する取り組みを開始しました。

1年単位でりんご生産者をサポートする会員を募集し、りんごの苗木の植樹やその後の管理、育成を支援します。組合員が生産者との交流を通じて、産直産地への理解を深めるとともに、持続可能なりんごの生産を目指します。



詳細はこちら



CLOSE UP

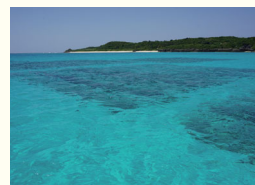
ちゅしま 美ら島応援 もずくプロジェクト



いへや
伊平屋島がこの先もずっと、美しい島でありますように



2010年からスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋島に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てています。伊平屋村、日本生協連、コープデリ連合会、伊平屋村漁協、海産物のきむらやの5者による「伊平屋島の環境保護」を目的とした連携から始まった取り組みです。



2025年度寄付金

寄付額累計

207万
2,297円

2,326万
2,261円

伊平屋産もずくの加工品を購入いただきありがとうございます。商品の売り上げの一部を寄付いただく「美ら島応援基金」を大切に、伊平屋島の原風景が残る海を整備し、守っていきたくと思っています。



伊平屋村
真栄田 孝 村長

完熟ではなく八分、身の詰まった状態で収穫するというのが伊平屋産のもずくの特長です。時化(しけ)るとうねりの強い、流れの速い海でとれるもずくなので、コシがあります。それが伊平屋のもずくとして自負しています。



伊平屋村漁協
新垣 雅士 代表理事組合長

42年もの長い取引となっており、産地の海人も、私どもの求める品質を非常によくわかってきています。伊平屋島の「伊平屋ブルー」と呼ばれる綺麗な海で育ったヌメリの強い、トロツとした舌触りのあるもずくを、しっかりと味付けして提供してまいります。



株式会社海産物のきむらや
木村 美樹雄 代表取締役社長

詳細はこちら



沖縄県伊平屋島産もずくが MEL認証を取得しました

MEL認証とは、国際的に認められている日本発の水産エコラベル認証制度で、日本の水産業と魚食文化の発展を目指しています。①生産段階(漁業・養殖認証)、②流通加工段階(CoC認証)の両方を満たすことで商品にロゴマークを表示できます。消費者はMELロゴを手がかりに「環境にやさしい方法で漁獲、養殖された国産水産物」を選ぶようになります。



食品ロス削減に向けた取り組み

食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間464万トン※と推計されています。

コープデリグループでは、食品ロス削減につながる商品の販売や、事業での食品廃棄物の削減、余剰食品のフードバンクへの寄贈などに取り組んでいます。また、「てまえどり」や季節商品の予約購入の呼びかけ、食品ロスに関する学習会の開催など、組合員とともに食品ロス削減に取り組んでいます。

※農林水産省「令和5年度推計」より



詳細はこちら



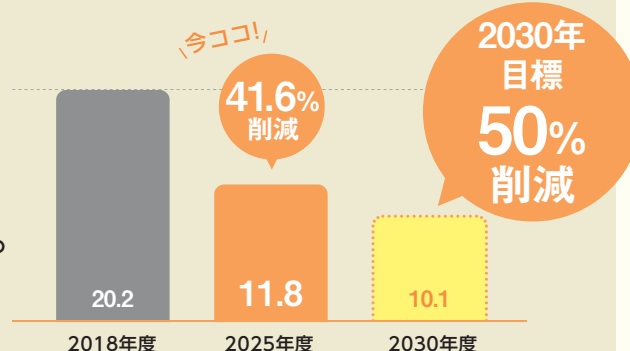
事業からのフードバンクへの寄付

56トン
(物流予備品など)

目標の到達状況

2030年目標
事業における食品廃棄物を
2018年度比**50%削減**します。

※単位: kg/千万円(店舗供給高当たりの最終廃棄量)



職員の働きやすさも、食品ロス削減も実現
夏季一斉配達休業中の
農畜産物の対応



コープデリでは、職員の働きやすさと夏の猛暑対策として夏季一斉配達休業※を実施しました。5日間の宅配サービスの休業中にも、たまごや牛乳、農産品など、生産量を調整できない商品があります。これらの商品を無駄にしないために、店舗での特価販売を行ったり、さらにたまごはお取引先の協力のもと「CO・OP産直のはぐくむたまごで作ったマヨネーズ」といった加工品の原料として活用しました。

※夏季一斉配達休業については29ページをご覧ください。



不揃いやキズがあっても大事にしたい
規格外農産物の
取り扱い



天候被害果・規格外農産物供給高

49.8 億円

ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて販売しています。育ちすぎたにんじんや表面にキズの付いたりんごも生産者が大事に育てたおいしい商品です。また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。



INTERVIEW

からだにも環境にもうれしい

コープデリONEDISHスープ

“もったいない”
未利用原料を
アップサイクル!

さまざまな商品を製造する際に発生する、原料の未利用部分。

コープデリモールキットの副菜として販売しているコープデリONEDISHシリーズのスープは、これらの未利用部分を活用し、滋味深い野菜のおいしさを引き出しました。

開発した職員に、開発にける思いを聞きました。

“もったいない”を
“おいしい”に
つなげました!コープデリ連合会
宅配戦略商品開発室
千葉 知美さん

私たちのものづくりの現場では、毎日たくさんの原料を使う中で、どうしても未利用部分が生まれてしまう。この“もったいない”を減らしながら、食卓で「また買いたい」と思っていただけのおいしさを届けたい。そこが開発の原動力です。

コープデリONEDISHスープで大切にしたのは、素材の価値を引き出して、より良い商品に生まれ変わらせること。たとえばカットサラダで出るキャベツの芯は、甘みのもとになる成分を多く含み、加熱すると甘みが引き立ちます。そこで、レトルトではなく低温で殺菌する製法で、野菜の風味を感じられるスープに仕立てました。ジュースを搾ったあとのにんじんも、スープの味わいに生きています。

これからも
新しい素材、
新しい味わいに、
挑戦します!!コープデリ連合会
宅配戦略商品開発室
二神 明光さん

実際に「野菜が苦手な子どもが食べてくれた」「忙しい日に助かる」「やさしい味でリピートしている」といった声をいただくたび、挑戦してよかったと感じます。

2023年3月のシリーズ販売開始からご利用数も伸びて、使える未利用原料も増えてきました。これまでに累計約25トンの未利用原料が、捨てられずにスープへ生まれ変わりました。さらに、コープデリONEDISHスープの人気商品「とうもろこしとキャベツのポタージュ」が2026年4月のジャパンフードセレクショングランプリを受賞しました。これからも、身近な環境配慮に“おいしく参加できる”商品をもっと増やしていきます。

販売実績

42万7,629パック

「とうもろこしとキャベツのポタージュ」が、
ジャパンフードセレクション
グランプリを受賞

2026年4月
グランプリ受賞

プラスチック削減に向けた取り組み



プラスチック製品は手軽で便利な生活必需品ですが、使用後にきちんと処理をしなければ、いずれ海に流れ着き「海洋プラスチック」の問題につながります。また、処理についても、燃やすことで温室効果ガスを発生させる原因ともなります。

コープデリグループは容器包装プラスチックについて、薄肉化や使用量の削減、詰め替えによる本体容器の再利用の推進、リサイクル素材や再生可能資源の商品への活用などを進めています。

さらに、コープみらいでは1990年代からマイバッグ利用を呼びかけています。組合員のレジ袋辞退率は85.4%、日常的にマイバッグを利用することでレジ袋の削減につながっています。

レジ袋辞退によるプラスチック削減量

(コープみらい店舗)

474トン



詳細はこちら



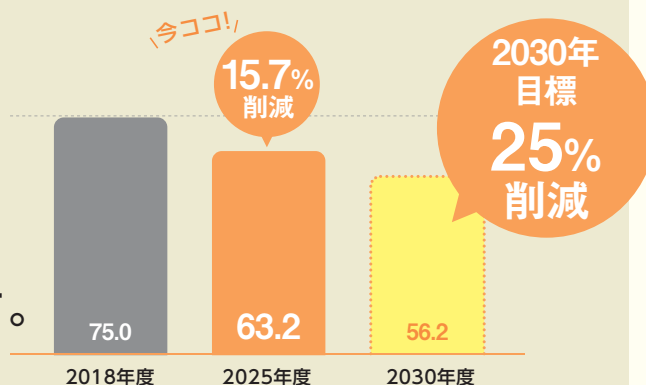
目標の到達状況

2030年目標

事業における容器包装
プラスチック使用量を

2018年度比**25%削減**します。

※単位: kg/千万円(供給高当たりの重量)



マイボトルを活用し、プラスチックを減らす
ウォーターサーバーの
導入



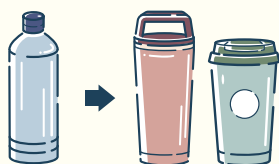
削減したペットボトル

年間184万本

※重量は39.4トン

毎年夏、宅配センターでは職員の熱中症対策としてペットボトル飲料を配布してきました。その数、年間184万本。使い終わったペットボトルは廃棄物となることが問題でした。新たに順次宅配センターに飲料用のウォーターサーバーを導入し、ペットボトルの配布から、職場のウォーターサーバーでマイボトルに給水するスタイルへと変更しました。使い捨てからマイボトルの活用へ、職場から変えています。

※ウォーターサーバーの取り組みは29ページをご覧ください。



小さなキャップも集まれば大きな力に
ペットボトルキャップ
リサイクル



組合員から回収したペットボトルキャップ

1億3,998万個

※2g/個で重量より換算

ペットボトル本体に比べて分別が後回しになりやすく、つい捨ててしまいがちなキャップも大切な資源です。コープデリグループではリサイクルの取り組みのひとつとして、組合員の皆さんからペットボトルキャップを回収しています。回収したペットボトルキャップは、一部の店舗の買い物カゴやベビーカーの原料に使用されています。

ペットボトルキャップのリサイクル資源としての売却益の一部を世界の子どものワクチン支援に役立てています。寄付については37ページをご覧ください。



詳細はこちら



CLOSE UP

大切な資源をリサイクルにつなげるために
コープデリエコセンター

私たちの身の回りには、限りある資源から作られています。
大切な資源を守るために必要なのが「リサイクル」。コープデリのリサイクルで、
要となるのが「コープデリエコセンター」(千葉県野田市)です。



組合員の皆さんから、コープデリの
宅配・店舗で回収した資源物は**コープデリエコセン**
ターなどに集められ、リサイクルしやすいかたちにまとめられます。



宅配センター・店舗に商品を納品した際の「**戻り便**」で資源物を運びます。トラックを効率よく運用することで、運ぶときのCO₂排出を減らします。

選別

資源物に他の素材が混ざっていると、**リサイクルができません**。集まった資源物の一部は、コープデリエコセンターの職員によって汚れやラベルが付いたものを取り除き、次の製品へと生まれ変わります。



たまごパックの選別



ペットボトルの選別

圧縮

運搬・リサイクルしやすいよう、機械で**大きな束**にまとめます。トラックにぴったり入るサイズに圧縮することで、**効率よく運ぶ**ことができます。



大型減容機



古紙や飲料用紙パックの1束は約1.1トン



組合員の皆さんのおかげで、とてもきれいな資源物が集まり、良質なリサイクルにつながっています。これらの資源物がしっかりと次の工程に届くように、エコセンターでは異物を取り除いたり、運びやすいかたちにまとめるなどの作業を行っています。これからもリサイクルへのご協力をお願いいたします。

コープデリエコセンター
長島 稔センター長

コープデリエコセンターの1日を
動画でご覧いただけます



02 安心して暮らせる 地域づくりのために



交通安全教室

宅配センターの職員が配達地域にある幼稚園・保育園を訪問し、交通ルールや道路上での危険を知ってもらうための交通安全教室を行っています。

誰もが安心して暮らし続けられる
地域社会づくりに貢献します

1

くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。

2

自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。

3

天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

くらしの中の困りごとを、お互いさまの気持ちでサポート くらしのたすけあいの会



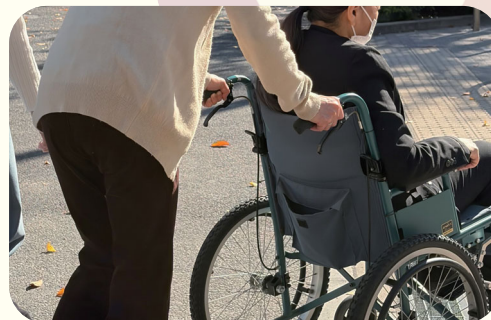
01 持続可能な生産と消費のために

コープみらいのたすけあい活動時間

23,352時間

コープみらいは、お互いさまの気持ちを大切に、くらしの中の困りごとで「誰かの手を借りたい」と思った時、組合員による有償のボランティアによってたすけあい活動を行っています。「組合員同士でたすけあえたら」、そんな願いから生まれたくらしのたすけあいの会は、生協の相互扶助の理念に基づき人と人をつなぎ、誰もが自分らしく、安心していきいきと暮らすことができる街づくりを目指します。

詳細はこちら



02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

「もったいない」から「ありがとう」へ フードドライブ活動



フードドライブに寄贈いただいた食品量 (コープみらい)

23.4トン

一部の店舗や事業所に設置している「食品寄贈ボックス」やイベント開催時に、組合員から家庭で眠っている食品をお寄せいただく「フードドライブ」活動を実施しています。集まった食品（缶詰、インスタント食品など）は、フードバンクなどを通じて地域の福祉団体や施設など、支援を必要としている方へ寄贈しています。また、未使用の文具を提供いただく取り組みや、新品または未使用品同等の子ども服を提供いただく取り組みなどにも広がっています。



詳細はこちら



地域に生まれてきてくれてありがとう 『はじめてばこ』



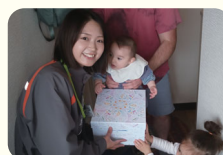
『はじめてばこ』申込数

1,461箱

(埼玉エリア:お申し込み時点)

地域に生まれてきた全ての子どもたちに、「おめでとう」と「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを込めて、赤ちゃんが生まれたご家庭に『はじめてばこ』をお届けしています。各地域の特徴をデザインした『はじめてばこ』の中には、これから赤ちゃんが経験するたくさんの「はじめて」への応援の気持ちを表し、サポーター企業からのプレゼントを入れて、お渡しています。

コープみらいは、この事業のパートナーとしてコープデリグッズを提供するほか、『はじめてばこ』のお届けを担います。



詳細はこちら



05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

地域とともに防災に取り組む

防災・減災の取り組み



防災・減災などの学習会 参加人数

2,057人

地域の自治体が主催する防災フェアや防災訓練に参加し、クイズやゲームなどを通じて防災・減災の取り組みを広くお知らせしています。あわせて、コープデリの宅配トラックを使用して、災害時に応急生活物資を搬送する訓練なども行いました。また、社協と共催で減災マップシミュレーションを開催したり、活動サポーターによる防災教室を地域で実施しています。

行政と連携しながら、日常の暮らしに根ざした生協だからこそできる、「地域の防災力」を高める活動を広げています。



職員が「地域の目」となる
見守り活動



見守り協定を締結

170自治体

コープみらいは、エリア内の島しょ部を除く全ての自治体と見守り協定を締結し、宅配・配食・店舗を通じた見守り活動を展開しています。宅配サービスでは、毎週決まった曜日・時間帯に同じ担当者が商品を届けるという特性を活かし、高齢者世帯の異変に気づいた際には事前に取り決めた連絡先に連絡・通報を行っています。また、店舗での高齢者への声かけなどにより、未然に詐欺被害を防ぐなど、職員の地域を見守る目が役立てられています。



お米などの寄贈で暮らしを支える
米寄贈の取り組み



寄贈した食品

140.5トン

多くの組合員の利用による剰余金の社会への還元として、物価高騰などの中で困難を強いられている世帯への支援として2022年4月からお米の寄贈を行っています。2025年度は1年を通し、千葉県・埼玉県・東京都内のフードバンクや生活困窮者への食料支援などを行っている団体へ約140.5トンを寄贈しました。また、2025年度は市場での米不足のためお米の寄贈が難しい状況となりましたが、無菌米飯（パックご飯）やロングライフパンを寄贈して、米不足の中でも継続した支援を行いました。

寄贈先の声

いただいたお米は子ども食堂でのお弁当として活用しています。保護者の皆さんからも「本当に助かります」という声が届いています。



地域と人をつなぐ、みんなの応援団 ブロック委員活動



居場所づくり企画への参加者数

22,088人

コープみらいでは、活動地域(千葉県・埼玉県・東京都)を22ブロックに分け組合員活動を行っています。組合員の立場で「地域と人をつなぐ、みんなの応援団」として約300人のブロック委員が、地域の組合員や地域の人々と一緒に、「みらいひろば」をはじめとした参加の場づくりや学びの場の提供、産地との交流などを行っています。ほかにも活動エリアの行政訪問を実施し、地域との関係づくりを進めています。

2025年度はみらいひろばや子育てひろば、高齢者を含めた居場所づくりなどの企画を2,601回行い、22,088人の地域の人の参加がありました。

詳細はこちら



家庭に眠るはがきや切手で子育て支援 子ども・子育て支援基金



寄せられた封筒数

22,817通

ご家庭で使用されずに眠っているはがき・切手などを組合員に寄贈いただく「はがき・切手回収キャンペーン」。その換金で得られる資金をもとに「コープみらい 子ども・子育て支援基金」を2021年に設立しました。

2025年度の「はがき・切手回収キャンペーン」では、組合員からはがきや切手が入った封筒が22,817通寄せられました。寄せられた未使用切手はそのままでは換金が難しく、額面ごとに専用シートに貼る必要があります。この作業にのべ1,563人の組合員ボランティアが参加しました。



詳細はこちら



組合員がサポーターとして支援 返済不要の奨学金給付



奨学生の人数

1,724人

奨学金応援サポーター人数

31,657人

日本では多くのひとり親世帯は経済的な不安を抱えており、子どもの貧困が深刻な社会課題です。コープみらいでは、組合員でひとり親家庭(両親がいない方も含む)の高校生を対象とした返済不要の奨学金給付事業を、コープみらい社会活動財団を通じて実施しています。

この事業は、組合員の「奨学金応援サポーター」からの募金で支えられており、組合員同士の助け合いとして行っています。また、奨学生と奨学金応援サポーターをつなぐ冊子を発行し、互いの声を届けています。

詳細はこちら



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

03 人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



子ども参観日

毎年、夏休み期間には、職員のお子さん・お孫さんが、父母・祖父母の仕事を見学・体験しています。実際に働いている姿を見て体感することで、生協や仕事への理解を深めています。

一人ひとりの人権と多様性が尊重され、誰もが安心して働ける組織づくりを進めます

1 人権と多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる組織をつくります。

2 ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく活躍し役割発揮できる組織をつくります。

女性職員が長く働き続けられる組織風土づくり

Womenいきいきプロジェクト



参加した女性職員

108人

「Womenいきいきプロジェクト女性職員交流会」は女性職員が長く働き続けられる組織風土づくり、活躍の場を広げることができる環境づくりを目的に、2022年度から毎年、宅配や店舗といった業態ごとに開催されてきました。2025年度は、初めて全会員生協、宅配・店舗の合同開催となり、さまざまな声が飛び交う、にぎやかな交流の場となりました。

コープデリグループでは全職員が女性職員の課題に対して理解することを目指し、定期的に学習会を開催し、女性特有の悩みをサポートする制度を整えています。

参加者の声

女性ならではの悩みや、将来などを共有・共感し、今後のモチベーションにつながりました。

参加者の声

交流会に参加するたびに、みんなから元気をもらえ、一緒に仕事をがんばっていこうと思えます。



夏の猛暑から職員を守り、働きやすい職場環境づくりを

宅配サービス

夏季一斉配達休業



近年の深刻な猛暑を受け、宅配の職場では暑さ対策を進めています。また宅配では配達担当が交代で夏季休暇を取得していますが、配達体制を整えることが大きな課題でした。こうしたことから、猛暑による疲労・熱中症から職員を守り、職員の働きやすい職場環境づくりを実現するため、宅配サービスの夏季一斉配達休業を実施しました。

夏季一斉配達休業前には、ストック品や冷凍弁当、冷凍ミールキットなどの商品企画を充実させ、休業期間の食生活に困らないよう、組合員への事前の案内を分かりやすく丁寧に行いました。

※休業中の農産物の食品ロス削減の取り組みは20ページをご覧ください

組合員の声

猛暑の中いつもありがとうございます。この休暇で身体を休めていただけると、組合員としても大変うれしく思います。

組合員の声

ゆっくり休めましたか？あらためて宅配のありがたみを感じました。

担当者の声

しっかりお盆のあいさつや暑参りができたので本当によかったです。

担当者の声

休み明けに、全員がリフレッシュして笑顔で出勤してきたのがよかった。

年間を通じて健康的な水分補給を支える

ウォーターサーバーの設置



宅配センターで働く職員にとって、夏場の水分補給は健康と安全に直結する重要な問題です。

コープデリグループでは、夏場を中心として約5カ月間、ペットボトル飲料を職員に配布し熱中症対策を行ってきました。新たに季節を問わず職員がいつでもマイボトルへ給水できるように、宅配センターへウォーターサーバーを設置しています。体への負担から常温水を要望する声に応え常温で純水を生成する装置を導入しました。職員の熱中症予防と健康維持のため、適切な水分補給を促しています。

利用職員の声

水が柔らかく感じられました。

利用職員の声

おいしくて使いやすく、よかったです。



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人々にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

男女ともに育児に関わる経験と喜びを

男性職員の育児休職取得



男性職員の育児休職取得率

113% (コープみらい)

2025年度の育児休職取得人数 51人
／配偶者出産人数 45人

※2024年度に配偶者が出産した職員も含まれるため、100%を超えています。

男性職員の育児休職取得率の向上に向け、就労環境の整備、育児支援関連制度の周知および取得推進に取り組んでいます。同時期に両親で育児をスタートし、育児に関わる経験や喜びなどを共有することを組織全体で後押しし、男女ともに、子育てをしながら、イキイキと働き続けられる職場運営を促進しています。男性職員の育児休職は、2週間以上取得が96%、1年以上の取得も12%となっています。

「育児」を経験することから得られた気づきは、職員自身だけでなく、組合員の気持ちに寄り添い、地域社会の期待に応え、貢献することへのモチベーションにもつながっています。

組合員の声

男性の配達担当が来月から育児を取得すると聞きました。育児が取りやすい職場は魅力的ですね。全職員が育児を取りやすい体制の整備を期待します。

育児休職取得職員の声

育児休職により、心も体も余裕をもって家庭を守ることができました。この感謝の気持ちを恩送りという形で職場に貢献できるようにします。

育児休職取得職員の声

育児休職を経験し、全ての世界観が変わりました。育児を通して、肯定することや伝え方を変えることで相手の聞く姿勢が変わることに気がつくきました。

育児休職取得職員の声

24時間休みなく続く育児をさせている世の中のお母さんたちのすごさを感じました。育児をとっていなかったらわからなかったことがたくさんあり、自分自身も成長できました。

お互いの個性を認め合い自分らしい暮らしを身だしなみ基準の緩和



職員の身だしなみ基準を見直し、働きやすさ・やりがいにつながる身だしなみを基準として、原則自由としました。清潔さと労働安全を考慮し、組合員やお取引先、職員同士の信頼を大切にしています。



組合員の声

担当の方が、髪色を変えて配達に来られたのですが、その姿がとてもカッコよく似合っていました。「似合っています」と声をかけたところ、担当の方もとてもうれしそうでした。配達において髪の色は差し支えないですし、仕事に楽しく取り組む環境を整えることはとても良い事だと思いました。

職員の声

髪色を変えてから初めて配達に伺うと、組合員さんからは、扉を開けた瞬間から「あら、可愛いじゃない!!」「誰かと思った!似合ってるよ!」と、評判が良く、とても嬉しかったです。髪色を変えたことで仕事へのモチベーションも上がり、今は楽しく配達ができています。

個性や能力に応じて活躍できる職場づくり 埼玉県障害者雇用優良事業所 認証



障がい者雇用人数

190人 (コープみらい)



コープみらいは、継続的に障がい者の法定雇用率を達成していることなどを評価され、障がい者を率先して雇用し、その能力の活用に積極的な事業所として「埼玉県障害者雇用優良事業所」に認証されました。

また、毎年2回、地域の特別支援学校からの実習を受け入れています。生徒さんにとっては仕事体験を通じて、社会のルールや働くことの意義を学ぶ場であると同時に、受け入れ事業所にとっても、障がいへの理解を深め、気づきや合理的配慮を含めたコミュニケーションを学ぶ良い機会となっています。



週に1日を他部署で働きキャリアを描く

生協内クロスワークプログラム



キャリア開発の新しい取り組みとして、生協内クロスワークプログラムを2024年度から開始しました。このプログラムは、約10カ月の期間、現在従事している仕事を週4日行いながら、週1日は他部署に勤務し、新たな仕事に取り組むというものです。生協内での「兼業」を通じて新たなスキルの獲得やさまざまな職員とのつながりづくり、自身の将来のキャリアを主体的に描いていくことを目的としています。



職員の声

2年前に参加した産地研修に今回は準備段階から関わり、生産者へメッセージを直接お渡しする企画を行いました。本部部署での業務は想像以上にボリュームがあり、文章力・発信力・PCスキルなど、週1回の勤務ですが、スキルアップに努めました。

コープデリ板橋センター
大畑 夏帆さん

担当者の声

「将来のキャリアを考える機会となった」「仕事のつながりを知り今の業務を見直すことができた」など、職員の感想は非常に前向きで満足度も高い傾向にあります。体験を通じて積極的に情報を集め、自身の生協人生を考える一つのきっかけにしたいと思っています。

人材開発部
郡司 明德さん

メリハリのある勤務でワーク・ライフ・バランスを推進

「4日勤務・週休3日」の就労制度



宅配センターの働き方改革と、配達効率アップによる生産性向上を目的に「4日勤務・週休3日」の就労制度を拡大しています。1日あたりの稼働時間を延長することで、配達コースの集約・効率化を可能にするだけでなく、職員の「ワーク・ライフ・バランス向上」にも寄与。確かな成果を上げつつ、多様な働き方の選択肢として広がっています。



職員の声

スタート前は自分に務まるかととても不安でしたが、始めてみると組合員さんもとても優しく、楽しく配達ができています。慣れてくると配達件数もこなせるようになり体力の不安もなくなりました。平日休みの友人とご飯に行ったり、美容院に行ったりと有意義に過ごしています。

コープデリ北総センター
五位淵 羽奈子さんコープデリ印西センター
須賀 孝文さん

職員の声

共働きで妻の負担が大きかった分、ご飯を作ったり、掃除をしたりして、負担をちょっとでも減らせるように頑張っています。妻も休日が1日増えたことを喜んでくれています！

担当者の声

4事業所に広がった「4勤3休」は、生産性向上と残業削減を実現し、確かな実績を上げています。そして何よりも、「プライベートが充実した」「モチベーションが上がった」といった現場の喜びの声は、導入による最大の成果の一つと言えます。今後も、導入事業所の拡大を計画的に進め、新しい働き方の選択肢をさらに広げていきます。

宅配運営統括部長(当時)
和田 康恵さん

04 100年後の地球のために



コープみらい八街の森

千葉県八街市にあるコープみらい八街の森は、里山のいきものがいる豊かな森です。コープみらいの森宣言にもとづき、地域の自然を大切にしたい整備や活動交流が行われています。

自然の豊かさを未来へつなぎ、
地球温暖化対策を進めます

1

事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。

2

再生可能エネルギーの開発・利用を進め、
持続可能な社会づくりへ貢献します。

3

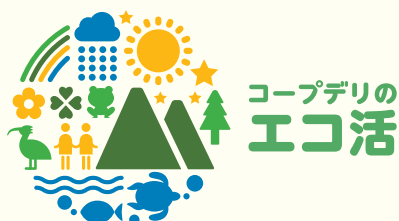
生物多様性の保全と、自然回復へつなげる
環境保全活動に取り組みます。

自然の大切さを知り、学び、考えるきっかけに コープデリのエコ活



この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。「温室効果ガス(特にCO₂)」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」の3つの問題をテーマとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で提供しています。

特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、コープみらいの環境の取り組みを学ぶエコたんけん隊の実施、コープみらいの森での自然体験を通じた学びや、田んぼのがっこう・畑のがっこうなどの農業体験を通じた地域の中で体験できる企画を大切にしています。



詳細はこちら



自然を守り、自然を大切にすることを コープみらいの森



自然を守り、自然を大切にすることをフィールドとして2つの「コープみらいの森」を設置しています。このフィールドでの活動を通して自然の恵みや自然環境の大切さについて学びあい、地域社会と連携しながら環境保全の取り組みを広げていきます。

埼玉県秩父市にある「コープみらい秩父の森」は、いのちはぐくむ四季彩の森として、一年を通して四季折々の自然を体験しながら、環境を考え生物多様性を学ぶことができます。



詳細はこちら



身近な環境への関心を深める ビーチクリーン活動



累計参加人数

497人

千葉県富津市富津海岸にて年に2回、コープみらいの役職員とその家族、お取引先が参加し、清掃ボランティアを開催しています。100人を超える参加者が海岸に打ち上げられたゴミを拾うことで、環境保護の重要性を体感しています。



詳細はこちら



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

再生可能エネルギーをコープの施設でつくる 太陽光発電設備の設置



太陽光発電能力(設備容量)

12,538kW

コープデリグループでは「2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱」の1つとして、再生可能エネルギーの創出と使用による電気由来のCO2削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。また、2025年度は新たな試みとして物流施設の駐車場へソーラーカーポートを設置しました。

2025年度は4施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が798kW増えました。



詳細はこちら



バイオガス発電による食品リサイクル 食品廃棄物による発電



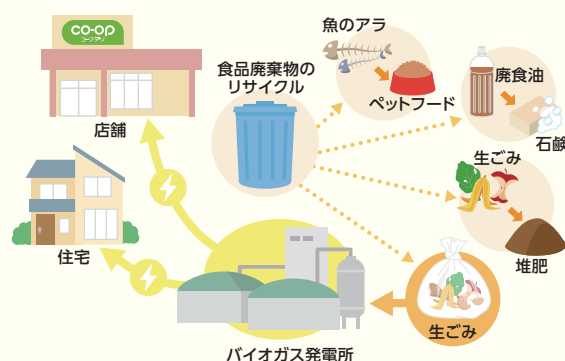
食品リサイクル率

94.7%

(コープみらい店舗)

コープみらいの店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2025年度94.7%と、食品リサイクル法に基づく再生利用などの実施率目標65%(食品小売業)を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオガス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。発電された電気は、全国の生協の電力事業を担う日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として契約した組合員のご家庭に届けられています。



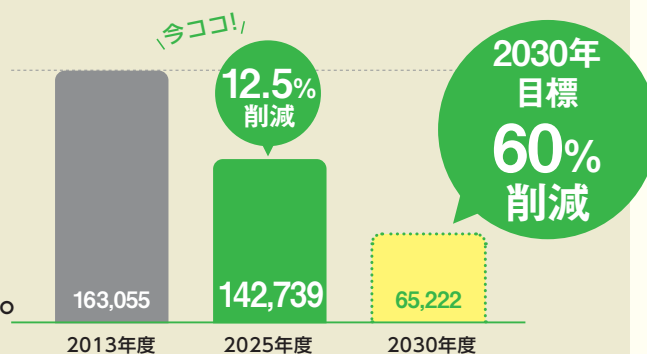
CLOSE UP

目標の到達状況

2030年目標

事業から排出される
温室効果ガスを

2013年度比60%削減します。

※単位:t-CO₂(CO₂排出量)

コープデリグループは、SDGsへのさらなる貢献を目指して、2022年に温室効果ガス削減目標を全面的に見直しました。それまで掲げてきた「2030年度に2013年度比40%削減」という目標を引き上げ、新たに「2030年度のありたい姿」として、CO₂排出量を2013年度比60%削減する目標を定めました。さらに、長期目標として「2050年CO₂排出量実質ゼロ」を目指すことも宣言しています。

この削減目標を着実に達成していくため、コープデリグループでは、温室効果ガス削減につながる取り組みとして、次の3つを施策の柱に据えています。

1. 電気使用量の削減
2. 電動化を主とした車両燃料の低炭素化
3. 再生可能エネルギーの創出と使用の拡大

これら3つの柱に基づく取り組みは、会員生協およびグループ会社それぞれが、事業の特性や設備の状況に合わせて、毎年度、具体的な削減計画のロードマップを策定し、着実に取り組んでいます。グループ全体で進捗を共有し、確認し合える体制を整えることで、2030年度の目標、そして2050年の実質ゼロという長期ビジョンの実現に向けて、本質的な温室効果ガス削減を目指します。

詳細はこちら



車両燃料の低炭素化

EV(電気自動車)の導入



EV車両導入台数

61台

コープデリグループでは「2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱」の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2025年度はグループ全体で61台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動などで使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの導入も順次開始しています。



目標達成のためのロードマップを策定

2030年温室効果ガス削減計画



コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。

目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。

	2025年度実績	2026年度計画
電気使用量の削減	● 冷蔵・冷凍・照明機器の更新 ● 自然冷媒の導入	● 宅配ルート効率化 ● 冷蔵・冷凍・照明機器の更新 ● 自然冷媒の導入 ● 地域資源を活用した再エネの調達
車両燃料低炭素化	● 車両EV化61台	● 車両EV化76台
再エネ創出・使用	● 自家消費太陽光発電4施設の設置	● 自家消費太陽光発電3施設の設置

05 世界中の人々の平和で 健康な生活のために



次世代へ平和をつなぐ

若い世代が被爆や戦争の体験を知り・学び・継承するための取り組みを地域の諸団体とともに進めています。

人権が守られ、飢餓や貧困のない
平和な世界の実現のために活動します

1

飢餓や貧困をなくし、子どもたちが健やかに暮らせる世界の
実現に貢献します。

2

世界のあらゆる人に目を向け、
人権を守る取り組みを進めます。

3

核兵器廃絶と戦争のない平和な世界を目指し、
平和について知り・学び、次世代へ伝える活動を進めます。

コープの牛乳で子どもたちを笑顔に

ハッピーミルクプロジェクト



寄付額累計

3億 3,184万 1,763円

コープデリグループは、2008年からコープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援する「ハッピーミルクプロジェクト」に取り組んでいます。2020年度からは、西アフリカのコートジボワール共和国を支援し、栄養不良などにより命の危機にさらされている子どもたちを守るための活動を行いました。

2026年度からは支援先を西アフリカのベナン共和国とし、母親たちへの栄養・育児の知識を広げ、子どもたちの栄養改善を進めます。2025年度の寄付金は2,245万4,600円となりました。



©UNICEF Benin



2026年度から
ベナン共和国を支援します

詳細はこちら



ペットボトルキャップや不要な衣類で支援

世界の子どものワクチン支援



寄付によってポリオワクチンを摂取できる子どもの人数

36万8,465人

(ポリオワクチン1本20円で換算)

子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。

コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップの売却益や、株式会社スクロールとともに実施している衣料品回収プロジェクトによる収益の一部を、認定NPO法人 世界の子どものワクチンに 日本委員会(JCV)に寄付しています。

2025年度のペットボトル回収による寄付金額は279万9,700円、衣料品回収プロジェクトによる寄付金額は456万9,600円でした。これはポリオワクチンに換算すると36万8,465人分となります。

ペットボトルキャップ回収量については22ページをご覧ください。また、衣料品回収プロジェクトではJCVのほかに、認定NPO法人Learning for Allへ407万7,500円を寄付しています。



人権尊重の取り組みをいっそう推進するために

コープデリグループ人権方針



コープデリグループはこれまでも、核兵器廃絶や平和活動、消費者の権利を守る運動などを組合員とともに進めてきました。国連でSDGsが採択されてからも、エシカル消費、地球温暖化対策、子どもの貧困対策、ジェンダー平等、地域社会づくり、健康・福祉・助け合いなど、人と社会を大切にする取り組みを広げています。

人権尊重の取り組みをいっそう推進するため、コープデリグループ人権方針を制定しました。事業や活動による人権課題を見つめ直し、役職員・組合員が一体となって、取引先や地域の諸団体などと協働して、人権が尊重される持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。



コープデリグループの
人権方針はこちら



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和と健康な生活のために

コープみらいでは、被爆・戦後80年という大きな節目を迎えた2025年、戦争の記憶を未来へつなぎ、平和の大切さを伝えていく活動を推進しました。沖縄や広島・長崎を訪ねる「平和の旅」や、「子ども平和新聞プロジェクト」、地域での「平和学習会」や「戦跡めぐり・ピースウォーク」など、さまざまな体験を通じて、平和について考え、平和の願いを未来につないでいきます。2026年4月には、米国ニューヨークの国連本部で開かれたNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議にあわせて生協代表団が結成され、コープみらいからも代表者を派遣しました。核兵器廃絶を願う平和行進や会議傍聴を通して、被爆者の声を世界へ届けること、平和への願いを次世代へ受け継ぐことの大切さをあらためて示しました。



コープみらいが平和の取り組みで大切にすること

コープみらいでは、誰もが安心してらせる、核兵器や戦争のない平和な世界を目指し、さまざまな平和の取り組みを行ってきました。被爆・戦後80年を迎えた2025年は組合員から「平和への願いや継承を大切にしたい」という声が寄せられました。

コープみらいが「ともに」の力で平和な未来を目指すための指針として、「コープみらいが平和の取り組みで大切にすること」を策定しました。これからも平和の取り組みを進めていきます。



本文はこちら



「知り、学び、伝える」ために、平和の旅へ

「くらし」の基本は平和であることです。平和の大切さを次世代に継承するために「知り、学び、伝える」ことを大切に、組合員どうしや親子で「平和」について考える「オキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」を実施しています。

平和の旅の参加者は、現地での核兵器や戦争の悲惨な事実を知り、学び、その学びを学習会や交流会を通じて、さまざまな地域で多くの方に平和の大切さを伝えていきます。体験報告交流会では、若い世代からの平和への力強い願いのこもった発表に涙する参加者もありました。また、コープみらい奨学生の2人が「ヒロシマ平和の旅サポーター」として旅の運営に携わりながら戦争の実態と平和の大切さを学びました。

若い世代がより参加しやすくするために、組合員に向けて「平和の旅募金」を呼びかけ、「オキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」の費用の一部として活用しています。



参加者の声

戦争はしあわせを何ももうまない、うまれるのは悲しみと苦しみだけ。なぜこれが分からないのかな？ 12才の私でも分かるのに、私より年上の人は何を考えてそのようなことを思うのだろう、と思いました。（中学1年生）

参加者の声

私のような子どもの世代では、原子力発電所など、核が生活にあるのも当たり前で、原爆の方がむしろ遠いものなのだと思います。だからこそ、「核は使ってはならないもの」と下の世代に伝えなければならぬと感じました。（中学3年生）

参加者の声

被爆者の方々が、相手を恨んだり同じ目に遭わせようと思うのではなく、平和のために行動する姿がとてまっかっこいいと思いました。高校生平和大使の「微力だけど無力じゃない」という言葉が印象的で、皆が力を合わせることで平和が実現できるのだと学びました。（大学2年）

参加者の声

ヒロシマを訪れる前には実感していなかった自分と「原爆・戦争の記憶」のつながりを見出し、被爆・戦後80年という今、このときに、広島を訪れた意味について、未来への行動を考える時間になりました。（大学院4年）



詳細はこちら



「被爆アオギリ二世」の苗木植樹

12月5日(金)に「被爆アオギリ二世」の苗木をコープみらい本部敷地(さいたま市)に植樹しました。1945年の原子爆弾投下による甚大な被害を受けながらも奇跡的に生き延びたアオギリを由来とする苗木は、「命の尊さ」「平和の尊厳」の象徴です。

核兵器廃絶と平和への願いを新たにし、次世代へ「平和の尊さ」をつないでいくことを目的に行われた今回の植樹は、広島市より苗木の配付を受けて実現しました。



身近な歴史から学ぶ地域での平和活動

戦争体験者から直接お話を伺う平和学習会や、地域の戦跡めぐりなどを活発に開催しています。参加者にとっては、教科書だけでは学べない「生きた歴史」に触れ、平和の価値を自分ごととして捉え直す貴重な機会となっています。



子ども平和新聞プロジェクト

被爆・戦後80年の節目となる2025年。子どもたちが平和についてより深く考えるきっかけをつくり、戦争の記憶や記録、平和への思いを次世代に継承することを目指して「子ども平和新聞プロジェクト」を実施し、31人の子どもたちが参加しました。

子どもたちが主体的に平和を学び、新聞を通じてメッセージを発信するこの企画は、新聞社や行政、地域の学生、平和団体の協力も得て、地域一体となった取り組みとなりました。

子ども
平和新聞PJは
こちら →



サステナビリティデータ

組合員の暮らしを支え、地域社会や地球環境に貢献するため、事業と活動の両面からサステナビリティの取り組みを進めています。本ページでは、組合員をはじめ、地域社会や取引先など多くのステークホルダーとともに取り組んだ、環境、社会、商品・品質、組合員活動などに関する主な成果を、2025年度のデータとして整理し、取り組みの広がりや進捗をお伝えします。

コープの産直産地・生産者団体数

合計

521



組合員の声



コープみらい計

95,057 件

リサイクル回収量



コープみらい計

27,611 トン

フードバンクなどへの食品寄贈量



コープみらい計

23.4 トン

(フードドライブ活動・物流予備品の合計)

コープデリ商品検査センター見学者数

12,563 人



2025年度組合員募金額

コープみらい計

2 億 4,374 万 5,733 円



■ 認証マーク付き商品供給高(コープデリグループ)

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)	認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
有機JAS	一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	41.0	レインフォレスト・アライアンス	人と自然にとってより良い未来を築くのに適した方法で栽培されたことを意味します。ra.org/ja	11.7
MSC	この水産物は、漁業に関するMSCの環境基準に則り、第三者に認証された漁業で獲られたものです。msc.org	62.1	国際フェアトレード	開発途上国から原料や製品を不当に安く買うのではなく、適正な価格で継続的に買い取る取引です。	0.9
ASC	環境や地域社会に配慮した養殖業につけられる認証マークです。		RSPO	「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を目指す取り組みです。	26.8
BAP	持続可能で責任のある養殖水産物を届けます。		FSC®	適切に管理された森林と、責任をもって調達された林産物に対する国際的な認証制度です。www.fsc.org	417.2
MEL	MELは、資源と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。		エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	474.8

■ 飼料用米の取り組み概況(コープデリグループ)

	供給高(億円)	飼料用米重量(トン)	田んぼ面積(ha)
豚肉	112.1	2,520	420
牛肉	1.5	122	20
鶏肉	2.7	185	31
鶏卵	19.7	801	134
合計	136.0	3,628	605

■ 産直の概況(コープデリグループ)

	産地・生産者団体数	産直供給高(億円)	産直構成比(%)
農産物	409産地	296	50.1
畜産	35団体	188	52.1
米	25団体	150	56.6
卵	35養鶏場	90	87.4
牛乳	5産地	4	2.3
水産	12産地	18	4.3

■ コープみらいのリサイクル資源回収量

	宅配のみ		宅配・店舗				店舗のみ
回収品目	商品とカタログのお届け用ポリ袋	商品カタログ・チラシ	飲料用紙パック	ペットボトル・ペットボトルキャップ	食品トレー	たまごパック	アルミ缶
回収量(kg)	374,253	24,808,963	670,033	1,036,895	414,206	148,026	158,390
前年比(%)	95.4	96.1	95.6	100.4	94.3	93.3	98.8

■ コープみらいの「組合員の声」受付件数

受付方法	声の経路	件数	前年比(%)
こえのポスト(宅配)	組合員が書いたカード・eフレンズで寄せられる声	35,560	176.7
こえのポスト(店舗)		655	84.1
観たこと聴いたことカード	職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声	39,150	85.2
お問合せ案内センター	電話・メールで寄せられた声	13,345	63.8
商品お申し出カード	商品に対するお申し出・ご指摘	6,347	91.2
合計		95,057	100.4

コープみらいの募金・寄付の状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先、寄付金の活用内容	募金(寄付)金額(円)
ユニセフ募金 (2025年2月21日～2026年2月20日)	日本ユニセフ協会:ユニセフが約190の国と地域で実施する子どもたちの栄養の改善、安全な飲み水や衛生施設の普及、初等教育の普及など	31,235,950
岩手県大船渡市山林火災支援募金 (2025年3月24日～4月13日)	岩手県生協連を通じて、大船渡市による義援金や支援金として活用	67,790,379
ミャンマー地震緊急支援募金 (2025年4月7日～5月11日)	日本ユニセフ協会を通じて、ユニセフが現地で行う安全な水、保健・医療物資の提供や、子どもたちのための教育、心理社会的支援等に活用	49,150,014
アフガニスタン地震緊急支援募金 (2025年9月15日～10月12日)	日本ユニセフ協会を通じて、ユニセフが現地で行う安全な飲み水や衛生用品などの緊急物資の提供、保健サービスや栄養支援等に活用	5,224,609
令和6年能登半島地震および能登半島豪雨災害募金 (2025年12月1日～2026年1月11日)	被災者のくらしやコミュニティづくり活動への支援、文化活動や体験活動など被災者の笑顔を取り戻すための支援などに活用	50,886,898
ふくしま復興応援募金	●福島県「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」:震災遺児・孤児への支援や子どものための事業など ●福島県「災害復興寄附金」:福島県が行う復旧復興の事業	17,417,649
平和の旅募金	コープみらいが行う組合員のオキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅に活用	3,121,333
子ども・子育て支援基金 (はがき・切手回収キャンペーン)	社会福祉法人中央共同募金会:「コープみらい&中央共同募金会」として東京、埼玉、千葉で貧困、格差、いじめ、DV、虐待など、困難な状態にある子どもたちの支援活動をしている団体の助成 認定NPO法人 ハンガー・フリー・ワールド:パングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダの子どもの栄養改善や住民たちが自分の力で食べ物を得られるしくみ・地域づくりなどに活用 認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21): フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクトに活用	20,000,000

寄付金付き商品などの状況(コープデリグループ)

募金・寄付・取り組み名	寄付先	寄付金額(円)	寄付金の活用内容
ハッピーミルクプロジェクト*	日本ユニセフ協会	22,454,600	「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」 「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」
佐渡トキ応援お米プロジェクト	佐渡市トキ環境整備基金	2,148,456	佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や「環境にやさしい佐渡米づくり」
美ら島応援もぐりプロジェクト	伊平屋村美ら島応援基金	2,072,297	島の海岸清掃など自然環境の保護や、もぐり産業の活性化
grow(グロー)	grow基金	1,141,658	メキシコの農園労働者への医療サービス提供や子どもたちの教育などの支援
北カリマンタン マングローブ基金	北カリマンタン マングローブ基金	322,818	エビの産地であるインドネシア北カリマンタン州の環境と未来の水産資源を守るマングローブ植樹活動
インドネシア・エビ養殖業 改善プロジェクト	WWFジャパン	870,072	(WWFジャパン、WWFインドネシアとBOMAR社の協働による)環境と社会に配慮した責任あるエビ養殖業への転換の取り組みを支援
コアノスマイルスクール プロジェクト	日本ユニセフ協会	1,073,156	アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環境づくり (学校のトイレ・水の整備、教師の育成)
CO・OP×レッドカップキャンペーン (2025年10月1日～11月10日)	国連WFP協会	881,426	ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食を届ける取り組み
洗剤環境寄付キャンペーン	WWFジャパン	430,047	インドネシア各地の小規模パーム農園の持続可能な生産などを推進するプロジェクトを支援
パラノルディックスキー 応援キャンペーン	日本障害者スキー連盟	269,692	日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチーム(10～20代)の宿泊・国際大会遠征支援など
スマイルグリーンプロジェクト	WWFジャパン	617,331	ブラジルのアトランティックフォレストで実施する、森林再生などの活動を応援
ピンクリボン運動 (2025年9月1日～10月20日)	認定NPO法人J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)	222,216	乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援

※この寄付金額には組合員からの募金を含みます

コープみらいの安心して暮らせる地域づくりの取り組み

項目	2025年度実績
米寄贈	お米:約140.5トン、パックごはん:1,038ケース、ロングライフパン:8,945ケースを千葉、埼玉、東京のフードバンクや社会福祉協議会など62団体に寄贈(P26参照)
フードバンクへの寄贈	物流段階で発生した販売できない商品をフードバンクに寄贈。農産14トン、米6トン、食品5トン
フードドライブの取り組み	フードドライブ専用食品寄贈ボックス常設施設数65カ所、寄贈いただいた食品23.4トン(P25参照)
みらいひろば	組合員や地域の方など誰もが参加できる地域の居場所として、「みらいひろば」を毎月各地域で開催。開催回数2,118回、のべ参加人数16,535人(P27参照)
子育てひろば・ 地域子育て支援拠点事業	子育て中の親子が知り合い、交流できる場づくりとして、各地域で「子育てひろば」を運営。組合員活動としての子育てひろば:339回、のべ参加人数3,159人。行政に委託されている子育て支援拠点事業10会場、84,614人
自治体との見守り協定締結	職員が配達の際、組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に速やかに連絡・通報を行う協定です。170自治体
自治体・団体との災害協定締結	災害時の緊急支援物資提供などの協定です。千葉エリア29、埼玉エリア34、東京エリア11、計77自治体・団体
くらしのたすけあいの会 活動	お互いさまの気持ち(共感)を大切に、くらしの中の困りごとで「誰かの手を借りたい」と思った時、組合員による有償のボランティアによって助けあう活動。活動回数14,031回、活動時間23,352時間(P25参照)
くらしと地域づくり助成	くらしや文化の向上、社会発展、地域の活性化を目指す市民団体の活動・事業に対して助成。千葉16、埼玉12、東京17、計45団体、総額822万円を助成
平和について学ぶ活動	平和の大切さを次世代に継承するために「知り、学び、伝える」ことを大切にし、平和について考える機会を広げています。戦跡巡り・学習会開催数21回、のべ参加人数580人

ガバナンス・内部統制

コープみらいは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

総代会での意思決定と監査

総代会は、生活協同組合であるコープみらいの組合員の代表、総代による最高意思決定機関です。総代は、各選挙区の組合員から選ばれます。通常総代会に向けて年3回、ブロックごとに総代会議を行い、通常総代会に提案する議案を総代と話し合い、その場で出された意見を議案に反映させています。そして、毎年6月に通常総代会を開催し、事業報告や事業計画、予算などを議決します。また、2年に1回、役員(理事・監事)の選任を議決します。なお、事業報告の適正さを確保するため、監事や公認会計士による監査を実施しています。

業務執行体制

コープみらいは、理事会を毎月開催し、業務執行全般に関する重要事項を決定するとともに、代表理事による業務執行状況を監督しています。理事会のもとに執行役員会を毎週開催し、コープみらいとコープデリグループ全体の経営課題について迅速な意思決定と業務執行を行えるようにしています。

また、サステナビリティ推進体制として、コープみらい・コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」に沿って、課題・目標を執行役員会で確認し、進捗管理を行っています。

内部統制について

コープみらい・コープデリ連合会は、「内部統制に関する基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。

7つの体制

1	コンプライアンス体制
2	情報管理体制
3	リスク管理体制
4	効率性確保体制
5	グループ会社など業務適正確保体制
6	監事監査確保体制
7	監事への報告に関する体制

コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習(情報セキュリティを含む)を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室(ヘルプライン)および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

人権尊重について

人権尊重を重要な経営課題の1つと位置づけ、役職員、組合員、取引先・委託先など事業と活動に関わる人々の人権に配慮した取り組みを進めています。人権方針に基づき、差別・ハラスメントの防止、安全で働きやすい職場環境の整備、多様性の尊重に取り組み、教育・周知を通じて理解浸透を図るとともに、相談・通報窓口の運用により、人権に関わる課題の把握と改善に努めています。

リスク管理について

リスク管理については、毎年事業経営に影響を与えるリスクを洗い出し、リスク評価から重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2025年度は、コープデリグループ全体で713項目のリスクを洗い出し、評価を行い、136項目の重点リスク(月次でのリスク管理)を設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

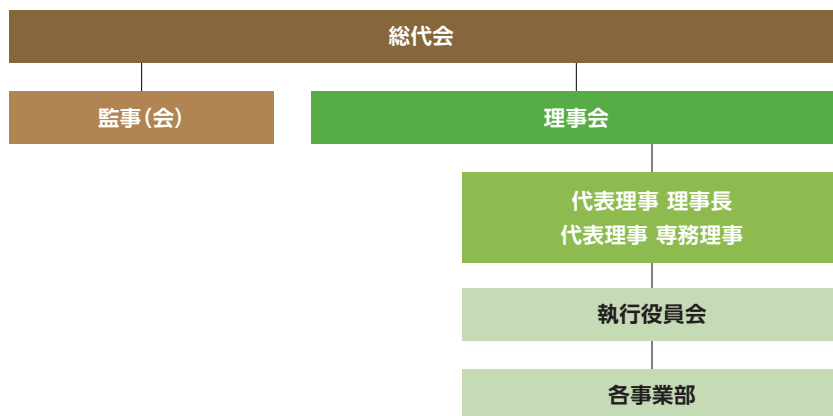
危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関わる具体的な手順を整備し運用しています。さらに、不正アクセスなどのサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や、個人情報を含む機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープみらい・コープデリ連合会では、大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるよう「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的実施しています。

コープみらい組織図



コープ(生協)について

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。
日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。
一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合など同じ「協同組合」です。

世界中に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」のによって運営されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



出資

組合員一人ひとりが持ち寄る大切な出資金は、安全で安心できる商品づくりや宅配・店舗の運営など組合員の願いを実現するために活用されています。



利用

組合員は、宅配や店舗で商品を購入したり、さまざまなサービスを利用したりします。

3つの柱



運営

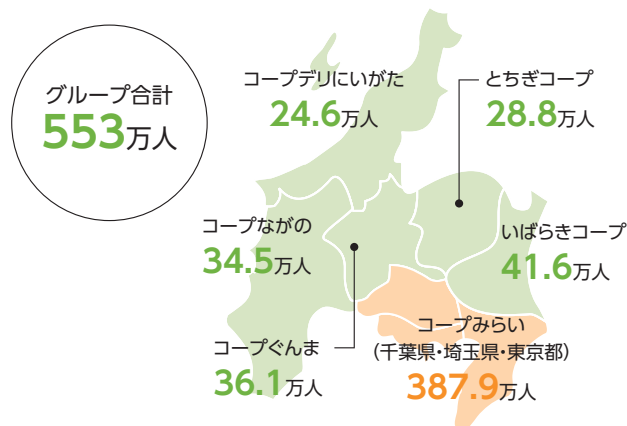
運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

コープみらいとコープデリグループについて

○ コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた）とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

▶ コープデリグループ会員生協組合員数



○ 6つの生協とコープデリ連合会の関係

コープみらいをはじめとするコープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、553万人を超える組合員のくらしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

○ コープみらいの概況

(2026年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみらい
設立	2013年3月21日
本部所在地	〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
事業エリア	千葉県、埼玉県、東京都
出資金額	726.9億円
総事業高	4,379.8億円
供給高	4,255.2億円
うち宅配事業	3,000.9億円
うち店舗事業	1,254.3億円
共済事業	38.9億円
経常剰余金	90.0億円
正規職員在籍人数	3,083人
パート職員在籍人数*	10,320人
パート職員の正規職員換算人数	4,647人
宅配センター数	76
宅配車両台数	4,057
店舗数	125
うちスーパーマーケット型	73
うちミニ型	52
福祉事業所数	57

*「パート職員」はパート職員、アルバイト職員、介護ヘルパー職員の合計です

○ 組合員数・組織率

(2026年3月20日現在)

	組合員数	組織率
千葉エリア	93.8万人	31.7%
埼玉エリア	119.5万人	35.5%
東京エリア	171.0万人	22.3%
コープみらい計	387.9万人	27.5%

○ 役員体制

※理事長・副理事長および常勤役員を記載しています

(2026年6月21日現在)

代表理事 理事長	熊崎 伸
副理事長	河田 喜一
副理事長[非常勤]	古賀 摩希子
代表理事 専務理事	鳥羽 治明
常務理事(事業管掌)	大川 昌彦
常務理事(宅配事業本部長)	長島 淳一
常務理事(管理・開発管掌)	成田 章二
常勤理事(福祉事業担当)	圓尾 佐智子
常勤監事	木村 隆之

コープみらいの事業と活動

コープみらいの事業

宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の取扱アイテムから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウィークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



店舗事業

“おいしさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が125店舗(2026年3月20日現在)、さらにネットスーパーと移動店舗(一部地域)といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならではの」こだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、自分らしいくらしの応援をしています。チケット部門は心を動かすエンターテインメントを提供し、くらしのサービス・ハウジング部門は、便利で快適なくらしをサポートします。葬祭部門は故人への感謝とご遺族の新たな生活を支援します。

心豊かなくらしづくりを応援する4つのサービスをご用意しています。

チケット



くらしのサービス



ハウジング



コプセ(葬祭)



福祉事業

ケアプラン作成、ヘルパー派遣、障がい福祉サービス、デイサービスや(看護)小規模多機能ホーム「コープ夢みらい」の運営を通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ」では、入居者の自立した生活を支えます。



保障事業

CO・OP共済は、生協の事業として組合員の声をベースに、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きといった改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。



エネルギー供給事業

組合員の暮らしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープデリグループの事業所の太陽光発電施設の電気です。また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス事業「コープデリガス」を提供しています。



※コープデリガスは地域限定です。

コープみらいの活動

暮らしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、暮らしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

参加とネットワーク

組合員の事業利用や活動参加が広がることで暮らしをよりよくするために、地域の人々・団体とともに、豊かな地域社会づくりに参加しています。組合員や地域の人々がさまざまな活動をきっかけにコミュニケーションを重ね、つながりあい、つながりが網目のように広がることを目指しています。



歩行年齢測定会

食と商品

「知って、しゃべって、つながって、おいしいみらい」というキャッチフレーズのもと、暮らしに役立つ「商品」について、多様な生活スタイルに共感しながら、組合員同士がコミュニケーションし、食育「たべる、たいせつ」の取り組みを通して、よりよい暮らしづくりを進めています。



みらいひろば

暮らし

人と自然が共生する社会と平和な未来を追求します。心身ともに豊かにくらすようウェルビーイングを意識して、持続可能な未来のために、暮らしを取り巻く多様な課題に向けて、学びあい、共感し、多彩な活動に取り組んでいます。



「#わたしの平和宣言」



コープみらい秩父の森
流しそうめん体験



食品寄贈の取り組み
「買って応援!ほっこりセット」



ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」

コープみらいのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ
Instagram



【お問い合わせ先】

生活協同組合コープみらい

サステナビリティ推進部

〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい／サステナビリティレポート
読者アンケート
ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。
来年度の制作の参考にさせていただきます。
(2026年10月31日まで)

